

新宿の拠点再整備方針（案）

- 1 本方針策定の経緯と位置づけ
- 2 まちとターミナルの成立ち
- 3 まちの将来像
- 4 拠点再整備の進め方
- 5 拠点再整備方針
- 6 新宿グランドターミナルの階層別整備イメージ
- 7 今後の進め方

新宿駅とその周辺地域は、世界一の乗降客数を誇る巨大ターミナル新宿駅を中心に、歴史的なまちの成り立ちから商業が発達した東口地区、浄水場の跡地に高層ビル群が建設され都内有数のビジネス街となった西口地区など、個性豊かで多様な地区がそれぞれのまち並みを形成し、発展してきました。

新宿区では、本地域の特性を活かしつつ、各地区の連携を強化してまちの魅力をより一層向上させるため、地元の方々と議論しながら本地域の目指す将来像をとりまとめ、「新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン」（平成28年3月）を策定しました。

また昨年6月には、より広域的な視点から東京都と新宿区が共同でまちづくりの方向性をとりまとめ、「新宿の新たなまちづくり～2040年代の新宿の拠点づくり～」として公表したところです。

一方、東京都では、昨年9月に「都市づくりのグランドデザイン」を公表し、東京の2040年代の目指すべき姿を示しています。

この中で新宿は、国際交流ビジネスゾーンを担う中核的な拠点として、巨大ターミナルと、商業、業務、観光、娯楽などの多様な都市機能を有するポテンシャルを生かして東京の持続的な成長を支え、日本の活力を牽引する役割が期待されています。

東京の代表的なビジネス・交流の拠点である本地域は、1960年代の都市整備が行われてから約半世紀が過ぎ、機能更新の時期を迎えています。

これからの新宿のまちづくりには、これまでの地元の活発な取り組みを長期的な展望の下に引き継ぎつつ、新たな挑戦と持続的な発展を実現させる具体的な取り組みが必要です。

約四半世紀先の未来である2040年代には、少子高齢・人口減少社会が予測される一方、人工知能や自動運転等の技術革新、国際交流の活発化などによる都市活動の多様化も見込まれており、こうした将来の変化にも的確に対応していかなければなりません。

本整備方針は、新宿の拠点再整備に向けて、都民と区民、行政と事業者等が連携して取り組む内容を、関係者の協力を得てとりまとめたものです。

平成29年（2017年）●月

1 本方針策定の経緯と位置づけ

新宿の拠点再整備方針の位置づけ

新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン (2016年3月 新宿区)

【将来像】

世界に注目され、誰もが自由に行き交う国際集客都市
～世界と日本をつなぐ快遊都市へ～

2040年代の東京の都市像とその実現に 向けた道筋について 答申

(2016年9月 東京都都市計画審議会)

2040年代を見据えた東京の目指すべき都市構造の
イメージと地域像

新宿の新たなまちづくり～2040年代の新宿の拠点づくり～ (2017年6月 東京都・新宿区)

長期的・広域的な視点から新宿駅周辺地域が果たすべき役割とまちの将来像
将来像実現に向けた地域全体のまちづくりの指針

まちづくりの方向性

- ①新宿の魅力の充実・強化
- ②活動しやすい歩行者空間の創出
- ③国際水準の環境整備
- ④まちの魅力を次世代に継承

新宿の拠点再整備検討委員会 における検討 (2017年6月～)

都市づくりのグランドデザイン (2017年9月 東京都)

国際ビジネス交流ゾーン：

- ・世界中から人材、資本、情報が集まる、国際的な中枢業務機能が高度に集積した中核的な拠点が複数形成
- ・高密度な道路・交通ネットワークを生かし、国際的なビジネス・交流機能の強化と持続的な更新を図る
- ・国際的に高い水準を持つ緑豊かな都市環境が整備



(仮称) 新宿の拠点再整備方針

新宿の拠点再整備検討委員会における検討結果を踏まえて整備の方針を取りまとめたものであり、今後、自治体、公共施設管理者及び鉄道事業者が連携して取り組む具体的な整備内容を都民・区民に示し、共有するもの

新宿の拠点再整備検討委員会

○検討内容

新宿駅直近地区の整備方針及び周辺地域との交流や回遊性向上に資する都市基盤の整備方針の検討

○委員会の構成

会 長：日本大学 理工学部 教授 岸井隆幸

副 会 長：東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 中井検裕

委 員：国土交通省 東京国道事務所長
東京都 都市整備局 都市づくり政策部長 東京都 都市整備局 都市基盤部長
東京都 建設局 道路管理部長 東京都 建設局 道路保全担当部長
東京都 建設局 道路計画担当部長 東京都 交通局 企画担当部長
新宿区 都市計画部長 新宿区 みどり土木部長
渋谷区 都市整備部長
東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 品川・大規模開発部次長
小田急電鉄株式会社 プロジェクト推進本部 新宿プロジェクト推進部長
東京地下鉄株式会社 事業開発本部 不動産事業部長
京王電鉄株式会社 開発事業本部 開発企画部 新宿再開発推進室長
西武鉄道株式会社 鉄道本部 計画管理部長

オブザーバー：国土交通省 都市局 都市計画課 施設計画調整官
国土交通省 都市局 市街地整備課 拠点整備事業推進官
国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官
警視庁 交通部 交通規制課 都市交通管理室長

事 務 局：新宿区 都市計画部 新宿駅周辺整備担当課
東京都 都市整備局 都市基盤部 街路計画課
東京都 都市整備局 都市づくり政策部 開発企画課

2 まちとターミナルの成立ち

江戸・明治（1920年以前）
 大正・昭和前期（1920～1960年頃）
 戦後（1960～1990年頃）
 現在（1990年以降）

まちの成立ち

甲州街道の一つ目の宿場町・内藤新宿の発展

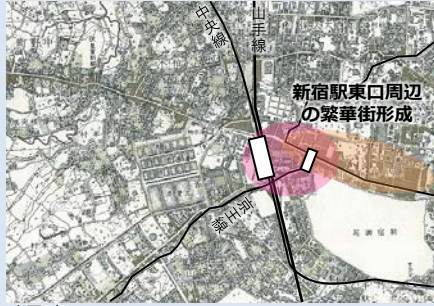


明治13年



内藤新宿の様子

都心と郊外を結ぶターミナル開設と東口繁華街の形成



大正5年



百貨店等が建ち並ぶ東口周辺

新宿副都心の建設による市街地拡大



昭和41年

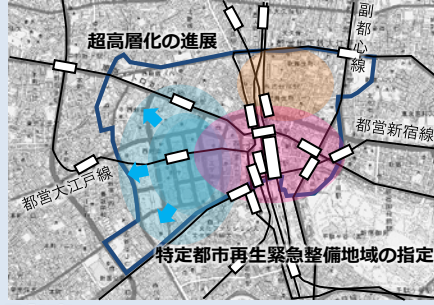


エンターテインメントを担う歌舞伎町



開発初期の西新宿

再開発事業による超高層化の進展



平成27年



都内有数のビジネスエリアに発展を遂げた西新宿



再開発事業による超高層化の進展

地区ごとに個性あるまちの発展

- ・明治期には新宿駅の開業とともに、東口を中心に店舗・百貨店や劇場等が建ち並ぶ繁華街を形成
- ・戦後には、復興計画により歌舞伎町の繁華街が形成され、飲食店や劇場・映画館などのエンターテインメント機能が充実
- ・高度成長期以降は西新宿に超高層ビル地区が形成され、東京有数のビジネス拠点に発展

ターミナルの成立ち



新宿への鉄道乗入開始



開業当時の新宿駅（1911年）

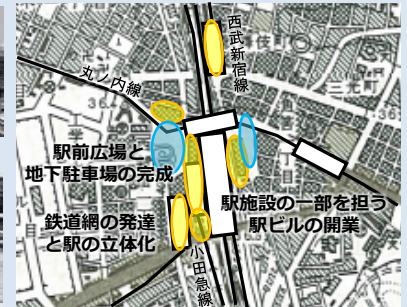


大正5年

駅前広場や駅ビルの建設により現在のターミナルが概ね形成



駅ビルと駅前広場が建設される西口（1966年）

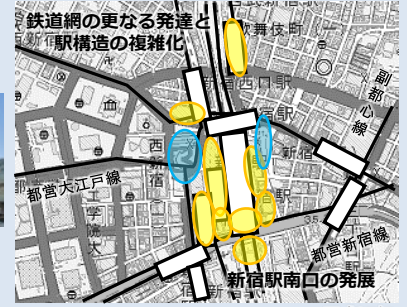


昭和41年

鉄道網の発達に伴う駅構造の重層化



新宿駅南口の発展



平成27年

まちの発展と鉄道網の発達に伴い、世界一の乗降客数を誇る巨大ターミナルが形成

- ・明治期の日本鉄道新宿駅の開業を皮切りに、都心と郊外を結ぶターミナルとして鉄道各線の駅が次々に開業
- ・1960年代には、駅施設の大規模改良にあわせて、時代を先取りした西口立体広場や、駅ビルの建設が進み、概ね現在の姿となる
- ・その後も、鉄道網の発達とともに、路線が地下化・立体化し、ターミナルが重層的に発展

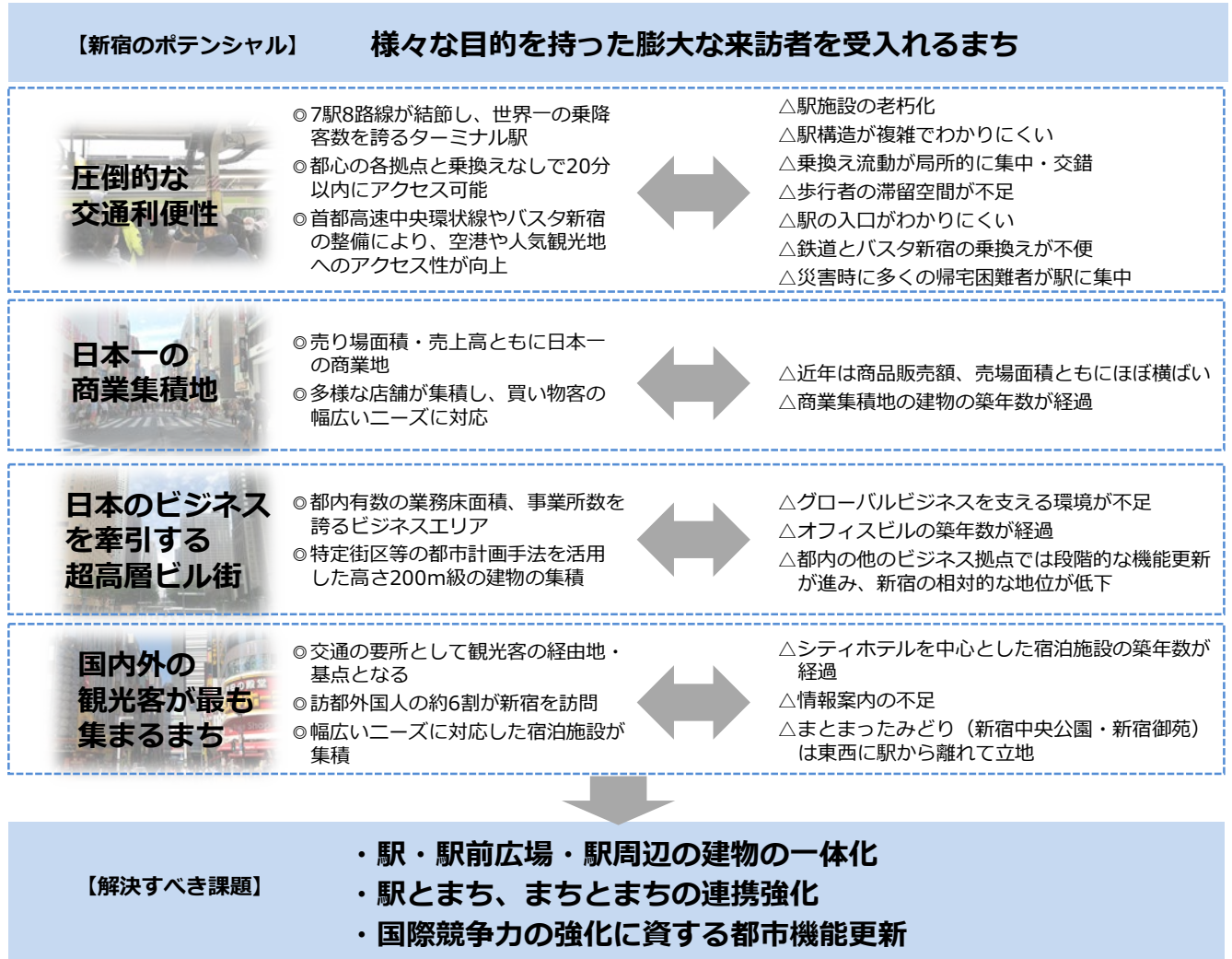
3 まちの将来像

「新宿の新たなまちづくり」における新宿駅周辺地域の将来像

国内外の人・モノ・情報が集まり、交わり、刺激し合い、さらなる魅力や新たな価値を持続的に創出し続ける「国際交流都市・新宿」
～「交流・連携・挑戦」が生まれる人中心のまちへ～

- (1) 車中心のまちから人中心のまちへ (2) 多様な都市機能が近接し、連携するまち

新宿のまちの特性と課題



拠点再整備に向けたまちづくりのコンセプト

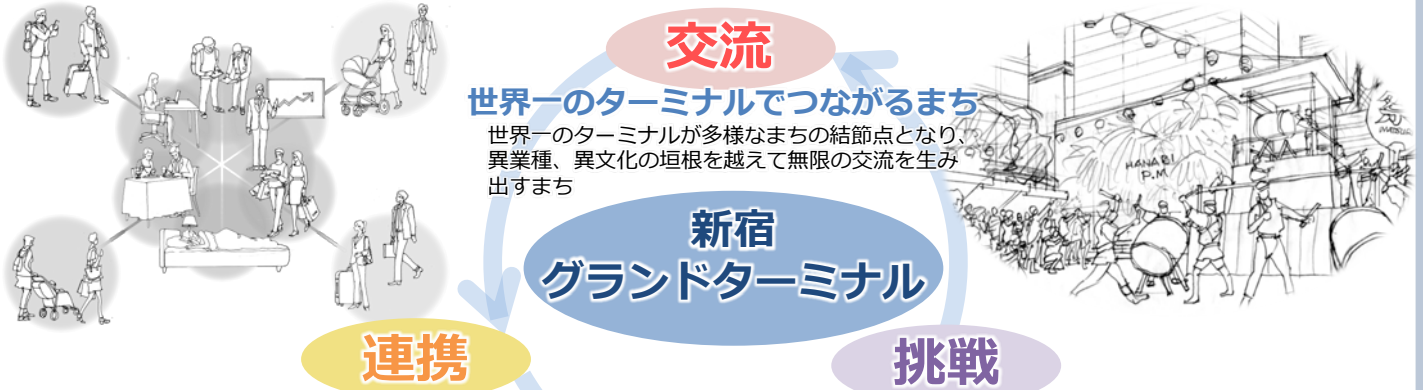
Shinjuku Grand Terminal

新宿グランドターミナルからはじまる新たなまちづくり

快適な空間と様々な目的の人や活動が折り重なり、
世界一のターミナルにしながら、
常に新たな何かに触れ合える複合的な都市
多様な活動にあふれ、交流・連携・挑戦が生まれるはじまりのまち

新宿の将来イメージ

新宿グランドターミナルから新宿のまち全体へと、交流・連携・挑戦を展開させていく



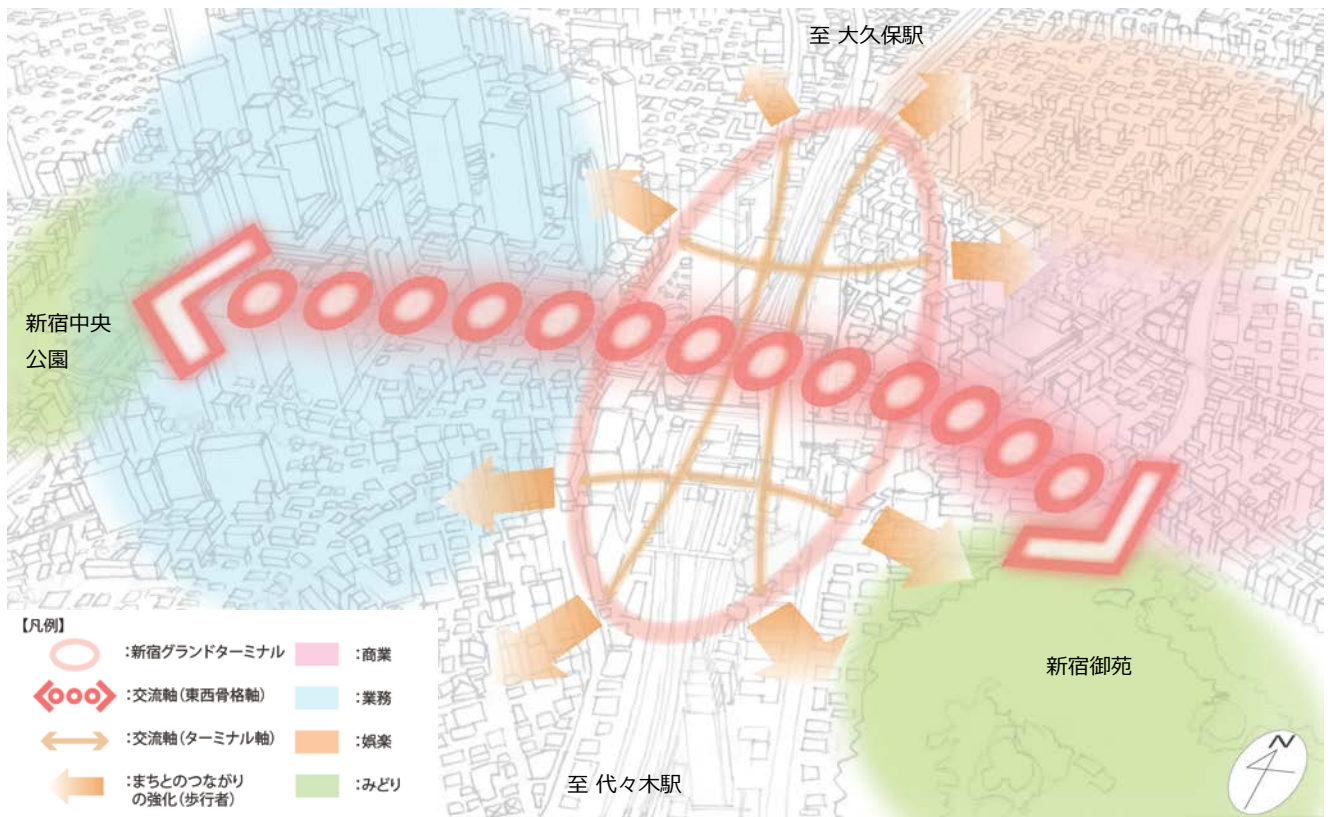
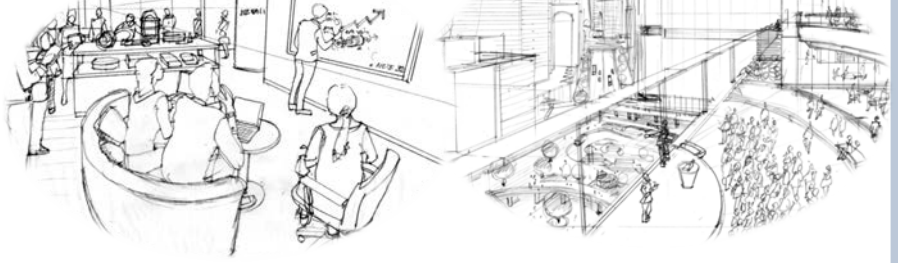
連携から新たな価値に出会うまち

国内外から新宿を訪れる「全ての人」が、「多様な人・文化・情報・技術」と連携することにより、新たな気づきや興味・関心が生まれ、活動の幅が次々と広がっていくまち



ビジネスも、カルチャーも、観光もさらに魅力的に、さらに多くのニーズに応えるまち

多様な目的を持って集まった人々が、交流と連携が進む環境の中で、新たな価値を発見し、新たな試みを挑戦する場があり、常に最新の商品や、サービス、文化が生み出されているまち



新宿グランドターミナル …… 駅・駅前広場・駅周辺の建物を一体化することにより、駅とまち、まちとまちの交流が生まれ、新宿と国内外との様々な連携を促し、安全で心地よい環境のもと、誰もが新たに挑戦できる場が展開されるエリア

交流軸(東西骨格軸) …… グランドターミナルを介して東西のまちをつなぐ、賑わいの連続やゆとりとみどりのある歩行者中心の空間

交流軸(ターミナル軸) …… グランドターミナルを一体化し、まちとつなぐ歩行者空間

4 拠点再整備の進め方

まちづくりの視点

①変え、整える

歩行者中心で交流や賑わいを生む空間へと変えていく

②繋ぎ、広げる

多様な都市機能を活かして、相互の連携・融合を広げていく

③育て、伝える

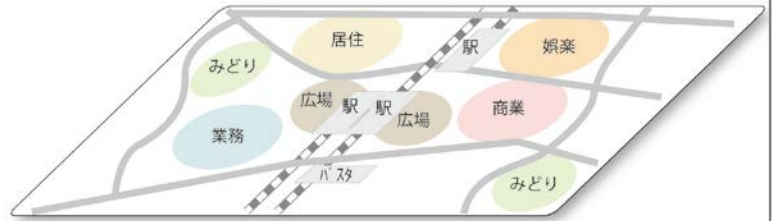
官民連携によりまちの魅力を育て、伝えていく

「新宿の新たなまちづくり～2040年代の新宿の拠点づくり～」より

新宿の拠点再整備の進め方

【現在】

- 新宿駅東口は商業、歌舞伎町は娯楽、西新宿は業務を中心にそれぞれに個性ある都市機能が発展
- まとまったみどり（新宿中央公園・新宿御苑）は東西に駅から離れて立地



【新宿グランドターミナルの一体的な再編】

Holistic Renovation

複数の駅と駅ビル群・バスターミナル・駅前広場を一体として機能させるため、敷地の整序を行いながら、新宿グランドターミナルを一体的に再編

交流 軸の構築

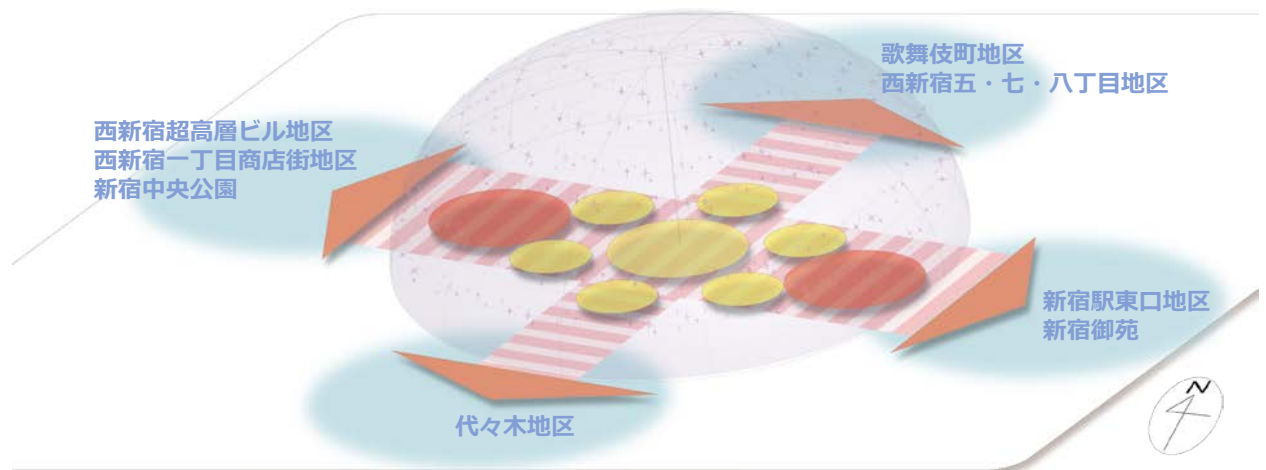
グランドターミナルの内外に東西骨格軸やターミナル軸など、まちをつなぐ歩行者中心のネットワークを構築

連携 空間の創出

交流軸の周辺に、新たなビジネス・文化・技術等の連携や多様なまちとの連携を促し、賑わいを生む空間を創出

持続的な発展への 挑戦

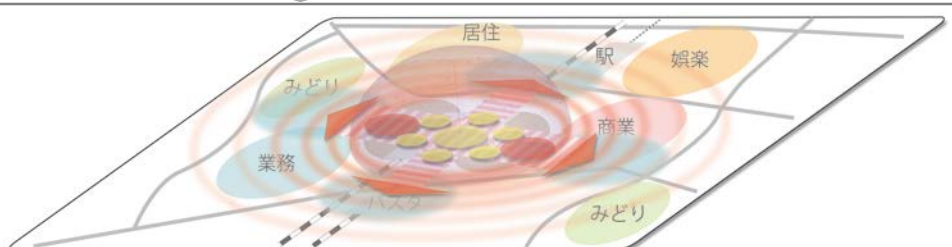
新たな挑戦を絶えず生み出し、新宿全体の挑戦につなげる都市機能の積極的な導入



【将来】

周辺への波及

- 新宿グランドターミナルの再編により、駅周辺の機能更新を促進し、質の高い国際交流拠点を形成



※Holistic: 「全体的な」「総体的な」という意味。複数の駅や建物など多様な施設が互いに連携し、一体のターミナルとしてまちの機能を担っていくイメージを表す。

5 拠点再整備方針

交流 軸の構築

方針 1 **グランドターミナルとまちを「東西骨格軸」でつなぐ**
Ⅰ. 東西のまちをつなぐデッキを駅上空に新設
Ⅱ. 東西骨格軸となる道路を歩行者優先の空間に再編

方針 2 **グランドターミナルを一体化して整える**
Ⅰ. グランドターミナルを一体的に機能させるターミナル軸を構築し、まちとつなぐ
Ⅱ. グランドターミナルの人の流れを整える
Ⅲ. わかりやすく人にやさしいグランドターミナルに整える

方針 3 **人中心の広場とまちに変える**
Ⅰ. 歩行者優先の駅前広場に再構成
Ⅱ. グランドターミナルへの車両流入を抑制

連携 空間の創出

方針 4 **グランドターミナルの顔となるプラザ・テラスを整備する**
Ⅰ. グランドターミナルのシンボルとなる新宿セントラルプラザの整備
Ⅱ. 地下からデッキまでを結ぶ新宿テラス(East・West・North)の整備
Ⅲ. 新宿テラスからまちの各所に視線が抜ける空間(新宿View)を確保

方針 5 **グランドターミナルに新たな機能を誘導・導入する空間を創出する**
Ⅰ. 新宿セントラルプラザに公益的な活動交流空間(新宿ラボ)の創出
Ⅱ. 新宿テラスに沿線の多様な機能を融合する空間(地域連携ラボ)の創出
Ⅲ. グランドターミナルに訪れる人々が触れ合えるショールーム空間の創出
Ⅳ. 安心して過ごせる空間の確保

方針 6 **グランドターミナルの各所に人が佇みたくなる空間とみどりを創る**
Ⅰ. 交流軸に沿って連携空間を創出
Ⅱ. 駅がわかるエントランスの創出
Ⅲ. 新宿中央公園と新宿御苑を結びつけるみどりの塊をグランドターミナルの各所に創出

方針 7 **新宿のレガシーを継承しながら、新たな景観を生み出す**
Ⅰ. 西口立体広場のポイドを継承・発展し、グランドターミナルからまち全体に展開
Ⅱ. 新宿セントラルプラザや駅前広場に面して、交流・連携・挑戦を感じさせる設えを用意
Ⅲ. 遠方から視認できる、新宿らしいスカイラインの形成

方針 8 **誰もがチャレンジできる環境を用意する**
Ⅰ. 訪れる人々に多様な活動やサービスを提供し、価値を高めるラボ機能の導入
Ⅱ. オールラウンドに発信を行える多様性を持ったショールーム機能の導入
Ⅲ. 消費者と直接結びつき、新たな価値を生み出すイノベーション機能の強化
Ⅳ. 人々を新宿に集め続け、新たな発信を行い続ける国際水準の都市機能の導入
Ⅴ. チャレンジャーを生み出し続ける環境づくり

方針 9 **次世代の技術導入の可能性に果敢に挑戦する**
Ⅰ. 次世代モビリティシステムへの対応
Ⅱ. 環境地域制御への対応(エネルギーの多重な面的利用の拡大・連携強化と計画的更新)
Ⅲ. 新技術を活用した災害時の対応

方針 10 **新宿全体の挑戦に結び付ける**
Ⅰ. 次の改造につながる、グランドターミナル周辺地域との連携
Ⅱ. 新宿全体の価値向上につながる、持続可能なエリアマネジメントの推進

持続的な発展への 挑戦

グランドターミナルの再編イメージ



※各種機能の位置・大きさは概ねのイメージである

方針 1

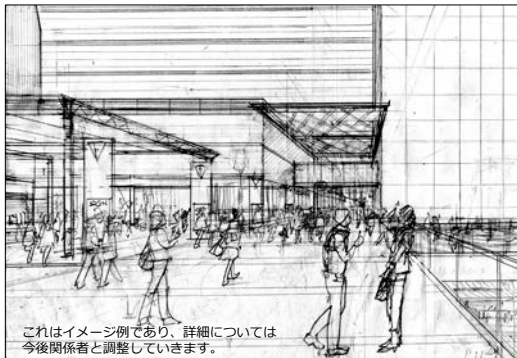
グランドターミナルとまちを「東西骨格軸」でつなぐ

I. 東西のまちをつなぐデッキを駅上空に新設

- ▶ 駅上空に東西デッキを新設し、地下の東西自由通路（2020年供用開始予定）とともに、新宿の東西骨格軸の核を形成
- ▶ 新たな東西デッキにつながるJR・小田急線改札を新設

II. 東西骨格軸となる道路を歩行者優先の空間に再編

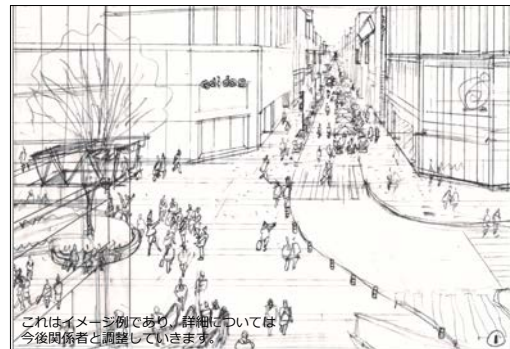
- ▶ 新宿通りの歩行者優先化に向けた取組を推進
- ▶ 4号街路（地上・地下）や新宿通り、中央通りの道路空間を再編し、歩行者空間を拡大



▲駅上空の東西デッキのイメージ



▲歩行者空間の拡大のイメージ（4号街路地下）



▲歩行者空間の拡大のイメージ（中央通り）

方針 2

グランドターミナルを一体化して整える

I. グランドターミナルを一体的に機能させるターミナル軸を構築し、まちとつなぐ

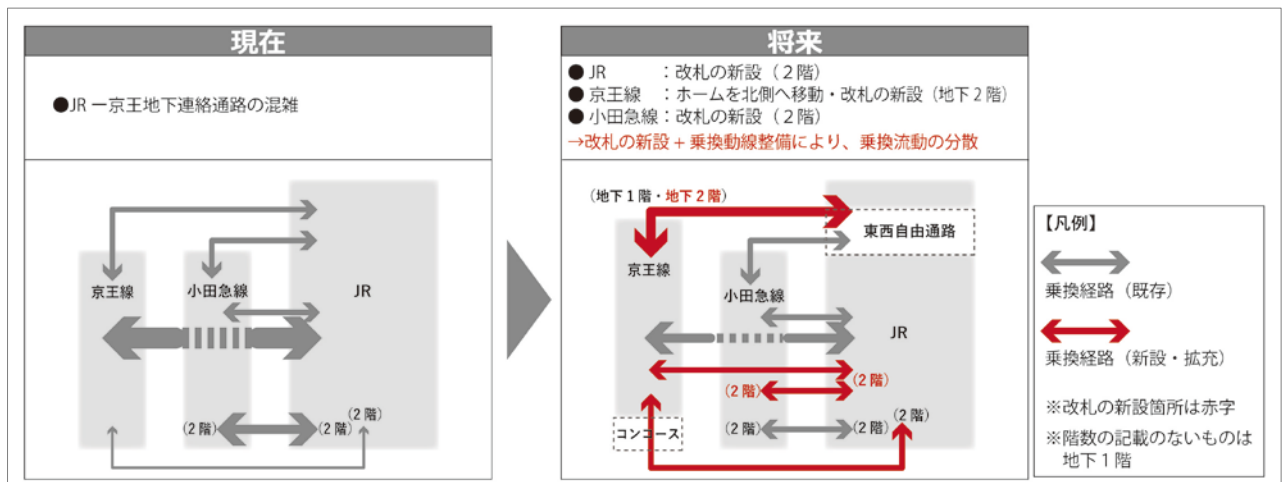
- ▶ 西武新宿駅とJR・丸ノ内線との乗換経路を拡充
- ▶ バスタ新宿と小田急・京王・都営各線との乗換経路を拡充
- ▶ ターミナル軸の結節点に「ターミナルシャフト※」を配置
- ▶ 「まちへとつながる歩行者ネットワーク」に結ぶターミナル軸を構築

II. グランドターミナルの人の流れを整える

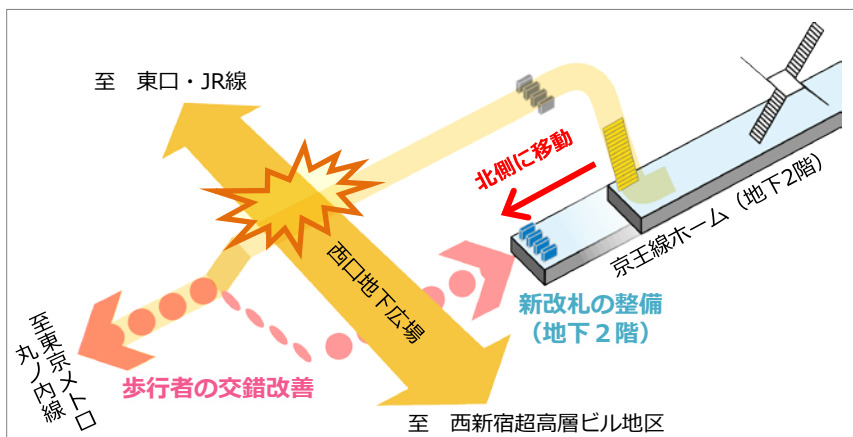
- ▶ JR・小田急・京王各線の乗換経路を駅上空に新設
- ▶ 京王線ホームを北側に移動させ、頭端部に改札を新設
- ▶ 交通結節機能を強化するため、バス・タクシー乗降場等を再配置

III. わかりやすく人にやさしいグランドターミナルに整える

- ▶ ユニバーサルデザインで段差のない、多言語に対応したターミナルを整備
- ▶ まちへの玄関口となる駅改札付近では、天井高さの確保や柱列を整えることにより、見晴らしがよく、快適な空間を創出



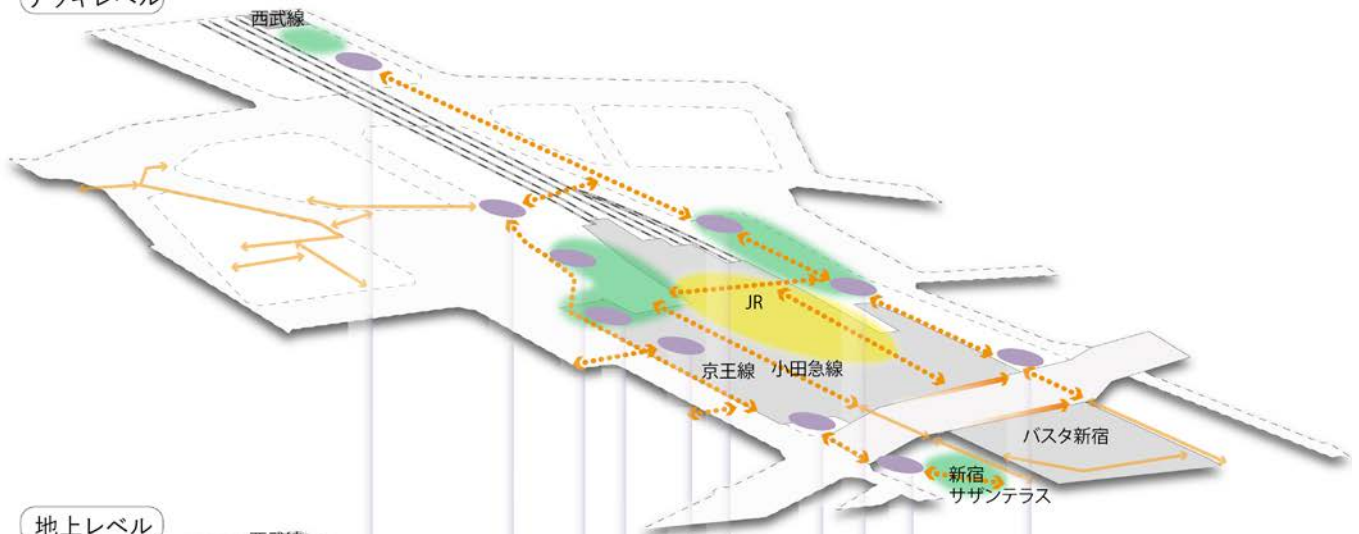
▲乗換流動の分散化



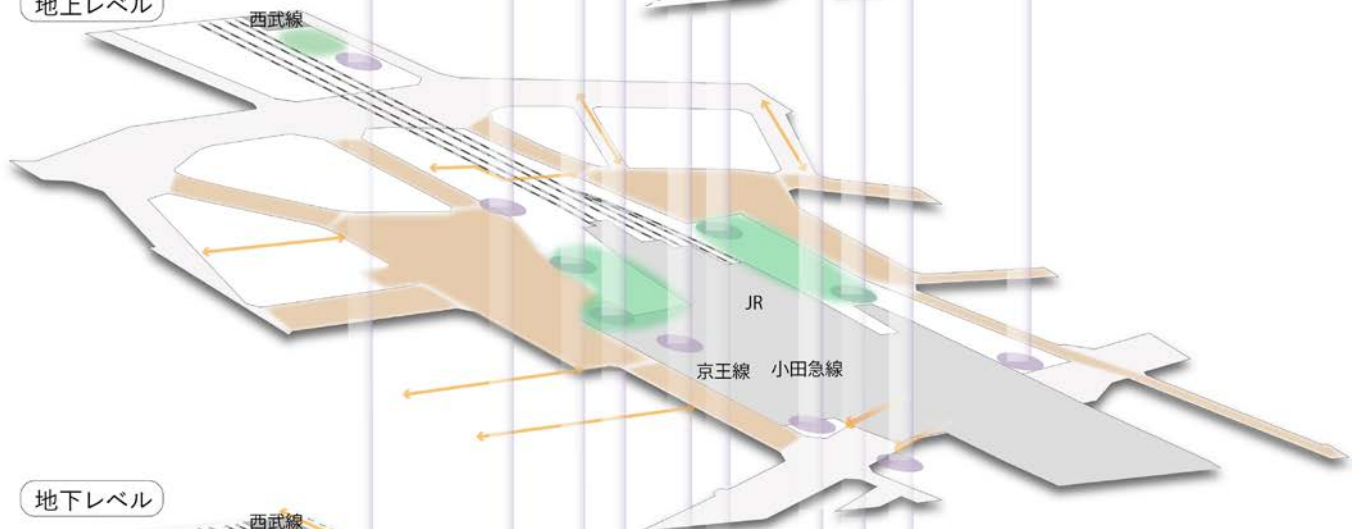
▲歩行者流動の交錯改善 (西口地下広場)

※ターミナルシャフト : 地上・地下・デッキレベルのターミナル軸をつなぐ縦動線。
駅改札近くに設置されることで、駅からまちへの移動や乗換経路だけでなく、まちの回遊移動としても利用される。

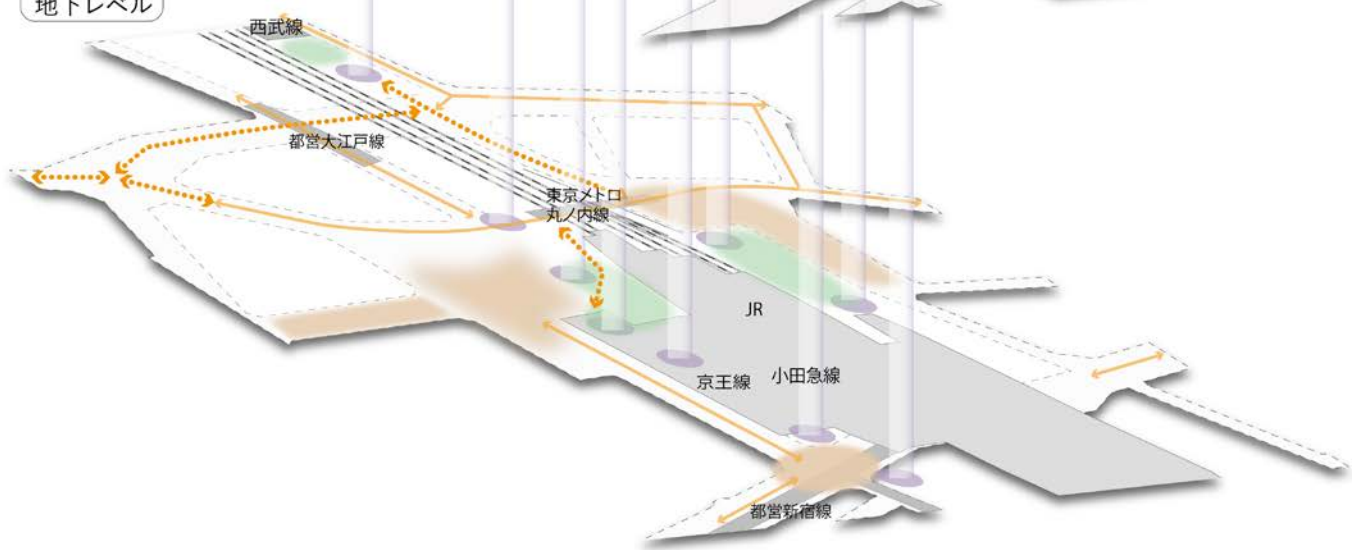
デッキレベル



地上レベル



地下レベル



【凡例】

- 新宿セントラルプラザ
- ・新宿テラス
 - ・新宿テラスと一体的な空間
- ・ターミナル軸(既存)
 - ・まちへとつながる歩行者ネットワーク(既存)
- ・ターミナル軸(計画)
 - ・まちへとつながる歩行者ネットワーク(計画)
- ターミナルシャフト
- 歩行者優先の広場・道路
- 駅施設

※各種機能の位置・大きさは概ねのイメージである

方針 3

人中心の広場とまちに変える

I. 歩行者優先の駅前広場に再構成

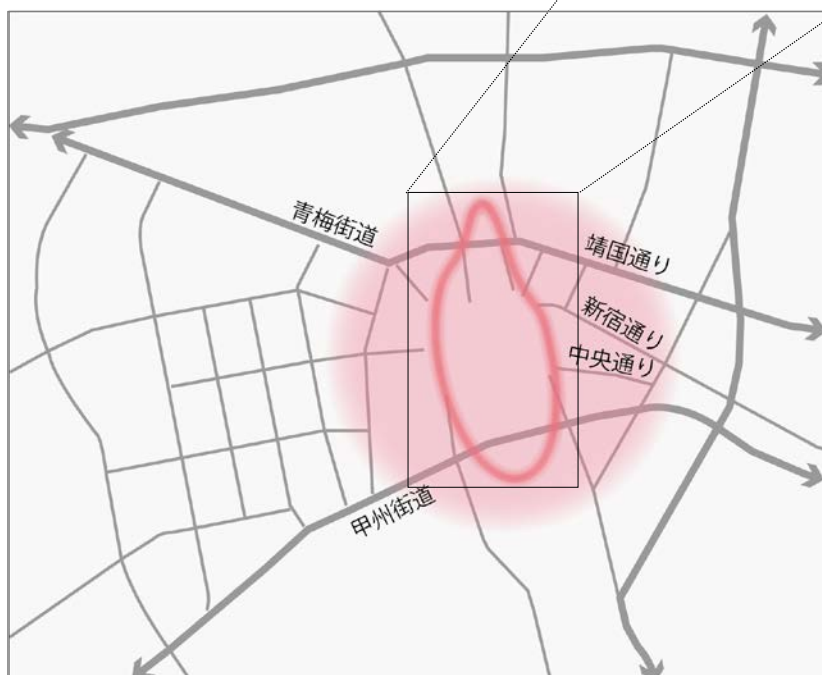
- ▶ 東西骨格軸上にグランドターミナルとまちをつなぐ歩行者空間を創出
- ▶ 西口広場は、車両系機能の再配置により、都市計画駐車場の地下出入口を移設し、地上・地下の歩行者空間を拡大
- ▶ 東口広場は、車両系機能を駅側に移設し、まちへの玄関口となる歩行者空間を創出
- ▶ バス・タクシー乗降場等を効率的に再配置
- ▶ 駅前広場に接続する道路を歩行者優先の空間に再編

II. グランドターミナルへの車両流入を抑制

- ▶ 駅前広場内の駐車場の出入口を移設し、駅前広場に流出入する車両動線を再構成
- ▶ 都市計画駐車場の台数を利用実態に即して見直し
- ▶ 都市計画駐車場相互やそれに隣接する建物のネットワーク化
- ▶ 路上荷さばきの抑制のため、共同荷さばき場を確保
- ▶ 自転車流入の抑制に向けた駐輪場の再配置



▲歩行者優先の駅前広場のイメージ（東口）



方針
4

グランドターミナルの顔となるプラザ・テラスを整備する

I. グランドターミナルのシンボルとなる新宿セントラルプラザの整備

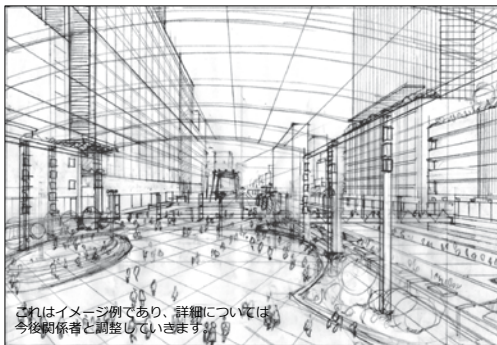
- ▶ JR駅上空に、グランドターミナルを一体化し、核となる歩行者広場空間を創出

II. 地下からデッキまでを結ぶ新宿テラス (East・West・North) の整備

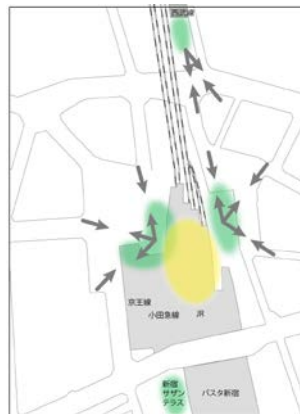
- ▶ 交流軸を象徴し、広場と建物が一体となって、グランドターミナルの顔となる空間を東西南北に配置
- ▶ 地下からデッキレベルまで人の流れを感じられる広場空間の整備
- ▶ 離れた場所からも存在がわかるデザインを誘導

III. 新宿テラスからまちの各所に視線が抜ける空間 (新宿View) を確保

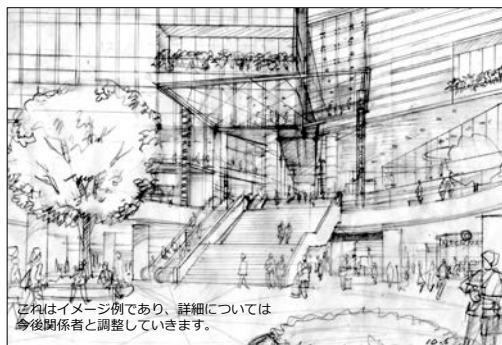
- ▶ 新宿テラスからまちの各所が望める空間を確保
- ▶ まちの各所から新宿テラスの存在がわかる空間を確保



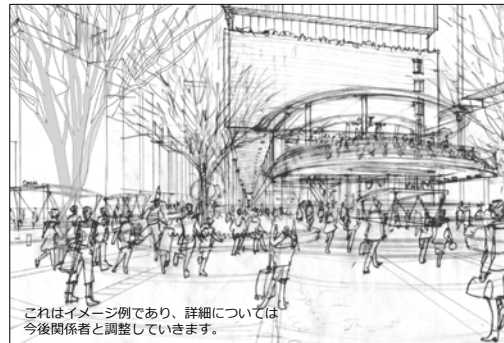
▲新宿セントラルプラザのイメージ



- 【凡例】
- ← 視線の抜け(新宿View)
 - 新宿セントラルプラザ
 - 新宿テラス



▲新宿テラス (West) のイメージ



▲新宿テラス (East) のイメージ

方針 5

グランドターミナルに新たな機能を誘導・導入する空間を創出する

I. 新宿セントラルプラザに公益的な活動交流空間（新宿ラボ※）の創出

- ▶ 新宿セントラルプラザに、新宿らしい様々な新たな活動が常に創出される場を創出

II. 新宿テラスに沿線の多様な機能を融合する空間（地域連携ラボ※）の創出

- ▶ 新宿テラスに、各沿線での観光情報やイベント・地域活動情報など、様々な情報やサービス、活動が展開されている場を創出

III. グランドターミナルに訪れる人々が触れ合えるショールーム空間の創出

- ▶ 新宿を訪れる人々が新たな商品やサービスに触れ合えることができるショールーム空間やイベントスペースの創出

IV. 安心して過ごせる空間の確保

- ▶ 安全な滞留空間の確保、駅に滞留者を集中させない情報発信の構築、安全な場所への複数経路の整備
- ▶ 軽傷者等の応急手当が可能な空間や設備の充実
- ▶ 民間施設を活用した帰宅困難者の受入れ空間と備蓄物資の確保
- ▶ 公共的な地下空間の安全性の確保

※新宿ラボ : 新宿セントラルプラザの中心に位置する空間で、様々な実験、イベントなどが行われ、行き交う人々が自由に出入りし様々な活動に触れ合える空間。

※地域連携ラボ : 新宿にとどまらず沿線の付加価値向上に資する活動を支援するため、交流軸に近接して、各沿線等の多様な活動やサービス、観光情報を、行き交う人々に対して提供する空間。交流軸沿いに複数展開されているイメージ。

方針 6

グランドターミナルの各所に人が佇みたくなる空間とみどりを創る

I. 交流軸に沿って連携空間※を創出

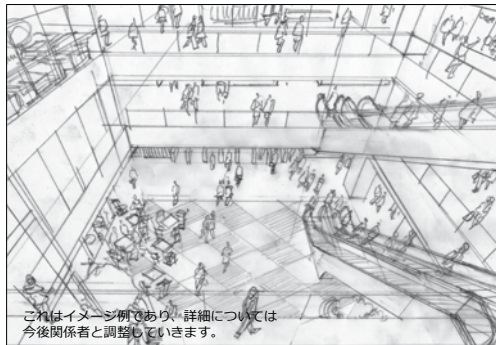
- ▶ 交流軸（東西骨格軸、ターミナル軸）沿いにおいて、各所に人が佇むことができる空間を創出

II. 駅がわかるエントランスの創出

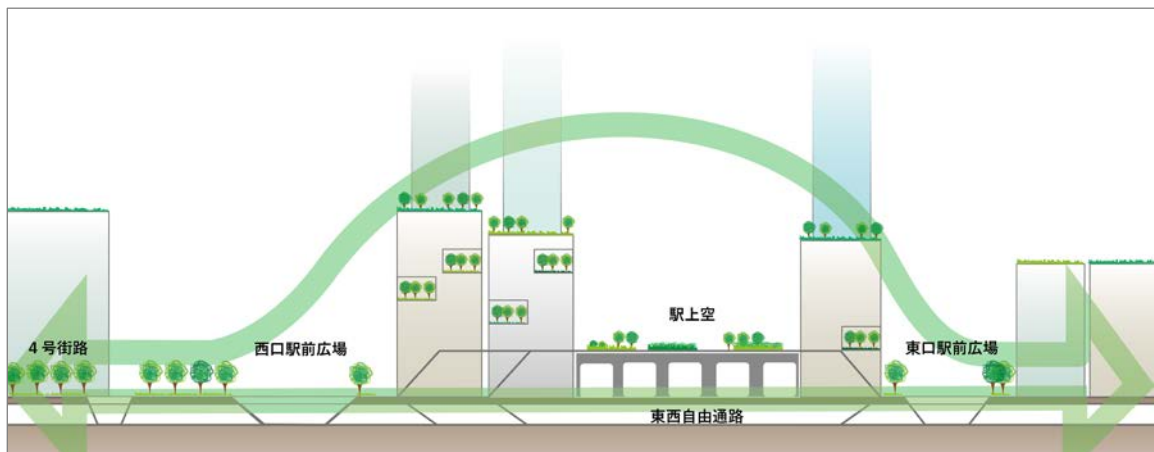
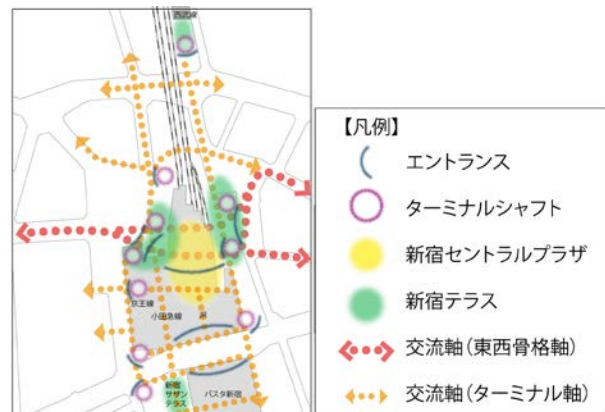
- ▶ 周辺から駅の位置が視認できるエントランスの整備
- ▶ エントランスには、人々が佇む場とともに、人の動きが立体的に感じられる視認性の高い空間を創出

III. 新宿中央公園と新宿御苑を結びつけるみどりの塊をグランドターミナルの各所に創出

- ▶ 様々な場所でみどりを感じられるよう、地上、デッキレベル、中間階、屋上等にみどりを重層的に配置



▲視認性の高いエントランスのイメージ



▲重層的なみどりのイメージ

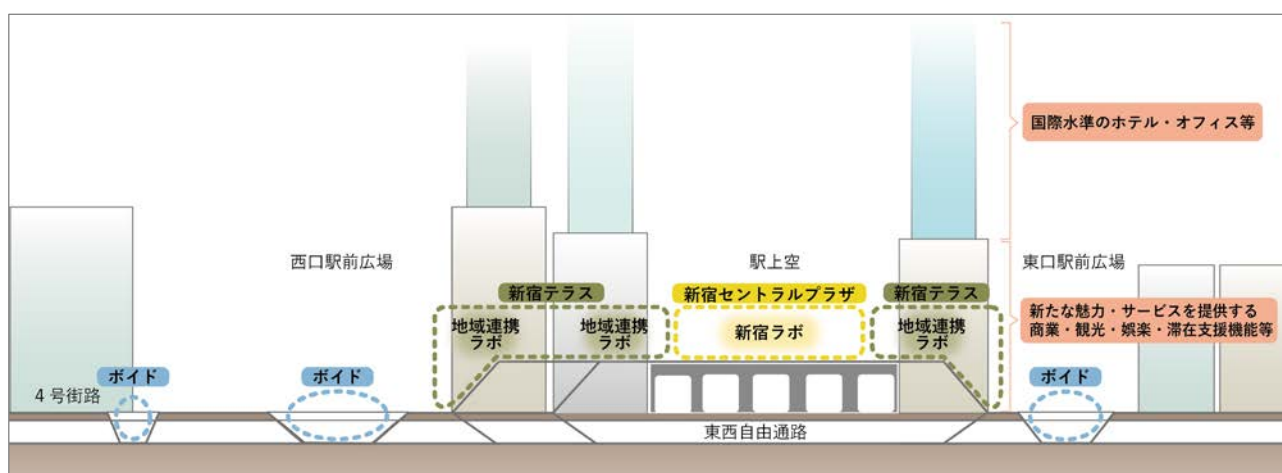
※連携空間：駅改札周辺や交流軸など、人が流動する通路空間に接して、休憩や待ち合わせなどが行えたり、グランドターミナルの活動を眺めたりすることができる滞留空間。

方針 7

新宿のレガシーを継承しながら、新たな景観を生み出す

I. 西口立体広場のポイド※を継承・発展し、グランドターミナルからまち全体に展開

- ▶ 西口駅前広場については、現在の立体広場の持つ空間特性や考え方を継承・発展し、ポイドを広場の中心に据えた空間を形成
- ▶ 西口駅前広場の考え方を新宿全体に発展させ、地上・地下・デッキをつなぐポイドを各所に展開することで、新たな新宿らしい景観を形成



▲グランドターミナルの多様な機能・レガシーのイメージ

参考 新宿駅西口駅前広場の特性とその継承・発展について

新宿駅西口駅前広場は、1960年に東京都市計画地方審議会にて決定された新宿副都心計画の要として、1964年に都市計画決定され、1966年に完成しました。

この駅前広場を設計した日本の著名建築家・坂倉準三氏と担当者一同は、「坂倉準三のデザイン 新宿駅西口広場／2017年2月 新宿駅西口広場建設記録刊行会」の中で、こう述べています。

- ・地下1階は西口における最も重要な広場として、地下1階中央上部を大きく開口させ、地下1階歩道にまで、自然光線を取り入れ、地上広場との空間的つながりを得、地上地下一体となった有機的かつ「自然」な駅前広場の計画がなされなければならない
- ・西口広場がこれから先もさらに生き生きと使い続けられていくためには、今後の改修改造に際しては、この広場の本質を決めることになった地下空間の地上化の意味について改めて思い起こすよう望みたい

今回の新宿の拠点再整備の中で、駅前広場を歩行者優先広場に再構成していくにあたっては、これらの考え方を継承・発展させていきます。



▲新宿西口駅前広場（地上）
出典：新宿副都心建設事業のあらし（新宿区都市整備部）



▲新宿西口駅前広場（地下）
出典：新宿副都心建設事業のあらし（新宿区都市整備部）

※ポイド：地下空間に光を取り込み、上方への開放感を生み出す、グランドターミナルの目印となる吹き抜け空間。

II. 新宿セントラルプラザや駅前広場に面して、交流・連携・挑戦を感じさせる設えを用意

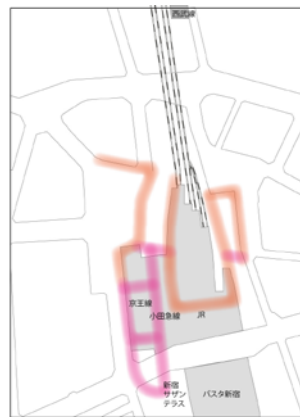
- ▶ ターミナル軸のうち駅前広場に面する部分には、連続的な人の流れが感じられるような設えを用意
- ▶ 新宿セントラルプラザや広場、ターミナル軸に面する部分の賑わい・憩いが感じられる設えの連続（内部が見えるファサード、誰もが利用できるバルコニー等）
- ▶ 吹き抜け空間の淵・天井などのデザインをあわせるなど、一体的な印象を生む景観を形成
- ▶ 観光客や買物客、就業者らが、夜間までまちの中で活動的に楽しめる機会を生み出すため、効果的なライトアップやプロジェクションマッピングなどにより人々が楽しめる設えを用意

III. 遠方から視認できる、新宿らしいスカイラインの形成

- ▶ 主要な場所からの見え方に配慮し、既存の超高層ビル群と一団のスカイラインを形成（主要な場所の例）六本木ヒルズ、サンシャイン池袋、文京シビックセンター、東京タワーなど

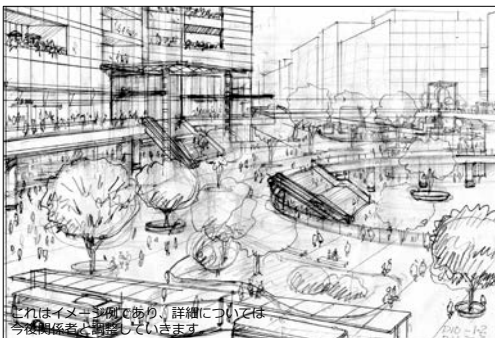


▲歩行者通路に面する賑わい・憩いが感じられる空間のイメージ



【凡例】

- 新宿セントラルプラザや駅前広場に面する部分の賑わい・憩いが感じられる設え
- 歩行者通路に面する部分の賑わい・憩いが感じられる設え



▲夜間でも人々が楽しめる設えのイメージ



【凡例】

- 新宿セントラルプラザや駅前広場の歩行者空間における夜間のライトアップなどの設え
- 新宿セントラルプラザや駅前広場、歩行者通路に面する建物における夜間のライトアップなどの設え



▲主要な場所の例

方針 8

誰もがチャレンジできる環境を用意する

I. 訪れる人々に多様な活動やサービスを提供し、価値を高めるラボ機能の導入

- ▶ 新たな試みを行おうとしている人材が集まり、来街者も関わりながら、様々な実験・イベントが常に行われ、新宿発の新たな活動を生み出していく新宿ラボ機能の導入
- ▶ 沿線等で展開されている活動やサービス、観光情報などを集め、それを行き交う人々に対して効果的に提供していくことで、人々の関心・興味を高め、沿線の付加価値向上につなげていく地域連携ラボ機能の導入

II. オールラウンドに発信を行える多様性を持ったショールーム機能の導入

- ▶ 新宿や東京・日本全国から集まる商品、サービス、文化、技術など、テーマに合わせて様々な新しいものや魅力あるものを展示し、世代や属性を問わず楽しめる機会を創出するショールーム機能の導入

III. 消費者と直接結びつき、新たな価値を生み出すイノベーション※機能の強化

- ▶ 新宿における多様性を生かしたインキュベーション※機能の充実
- ▶ 新たな活動の発表・共有の場となる展示・プロモーション施設や、交流・情報交換の場を生み出すカンファレンス機能の創出
- ▶ 新宿に訪れる膨大な観光客や消費者との直接的な交流を通じて、新たな商品や企画・サービスを事業化・商品化につなげるためのテストマーケティング支援機能の導入

IV. 人々を新宿に集め続け、新たな発信を行い続ける国際水準の都市機能の導入

- ▶ 世界からの多様な来訪者が滞在できる国際水準のホテルの導入
- ▶ 国内外の幅広い企業の入居を想定した国際水準のオフィスや活動環境の整備
- ▶ 国内外の来訪者の多様なニーズに対応し、誰もが快適に過ごせ、新たな魅力・サービスを提供する商業・観光・娯楽・滞在支援機能の導入
- ▶ ターミナルとしての立地や多様な機能が集積する特性を生かしたMICE機能の導入
- ▶ 次世代を見据え、多様なライフスタイルに対応し、誰もが快適に過ごせ、活動できる場の充実

V. チャレンジャーを生み出し続ける環境づくり

- ▶ 人材育成や起業支援に向けたイベント企画が絶えず行われ、新たな活動を始めようとする人々がグランドターミナルで活動のチャンスを得ることができる環境づくり

※イノベーション : 「技術革新」「刷新」のこと。本方針では、技術の革新にとどまらずこれまでとは全く違った新たな考え方、仕組みを取り入れて、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことを指す。

※インキュベーション : 創業を目指す人や創業間もない企業、新分野と展開しようとする企業に対して不足する資源（ソフト支援サービスや、低賃料スペースなど）を提供し、その成長を促進させる、新たな事業を創出させるための一連の支援システムと連携活動。

方針 9

次世代の技術導入の可能性に果敢に挑戦する

I. 次世代モビリティシステムへの対応

- ▶ グランドターミナルへの過度な車両流入を抑制し、駅前広場や駐車場における効率的な交通処理を実現する新技術の積極的な取り入れ（自動運転、AI、IoT、ITS技術など）
- ▶ 次世代の都市交通サービスの導入可能性に挑戦（バレーパーキング、カーシェアリング、共同集配など）
- ▶ 無公害車の走行を積極的に誘導

II. 環境地域制御への対応（エネルギーの多重な面的利用の拡大・連携強化と計画的更新）

- ▶ 街区・地区単位で融通するエネルギーの面的利用により、効率的なエネルギー供給を推進
- ▶ 自立分散型電源の設置とエネルギーの面的利用により、事業継続性の高い地区（BCD※）を形成
- ▶ 計画的に設備更新等が可能とする供給地区間の連携体制の構築
- ▶ 建物や公共的空間の省エネルギー化やヒートアイランド対策の推進

III. 新技術を活用した災害時の対応

- ▶ IoTなどの新技術を取り入れ、災害時の混乱回避・適切な避難誘導にあたり、膨大な来訪者に対して状況に応じた的確な情報発信等を行うなど、新たな災害時の対応システムを構築

※ BCD : Business Continuity District(事業継続地区)

方針 10

新宿全体の挑戦に結び付ける

I. 次の改造につながる、グランドターミナル周辺地域との連携

- ▶ グランドターミナル周辺の開発が将来進むことを想定して、グランドターミナル内において連携を強化する受け口を用意

II. 新宿全体の価値向上につながる、持続可能なエリアマネジメントの推進

- ▶ 民間活力を導入し、駅前広場等公共空間と民有地の一体的で高質な管理運営
- ▶ 周辺のまちづくり団体との連携（清掃活動、パトロール、防災訓練や地域イベント等への参加・連携）
- ▶ 官民連携した新たな賑わい創出や情報発信等の取組
- ▶ 周辺のまちづくり団体との連携を高め、新宿全体の価値向上につながる活動を展開

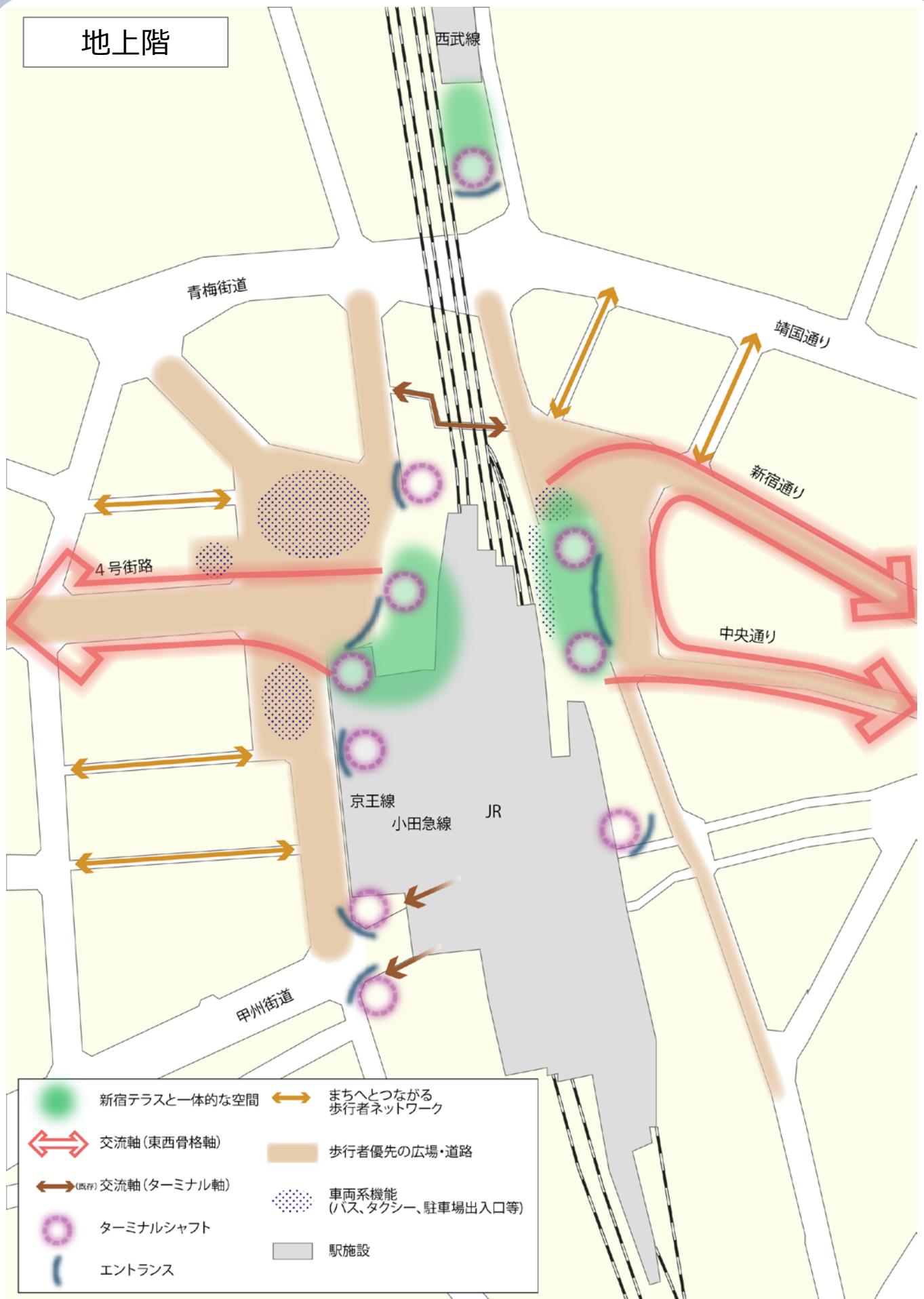


▲エリアマネジメントによる公共空間の管理運営のイメージ



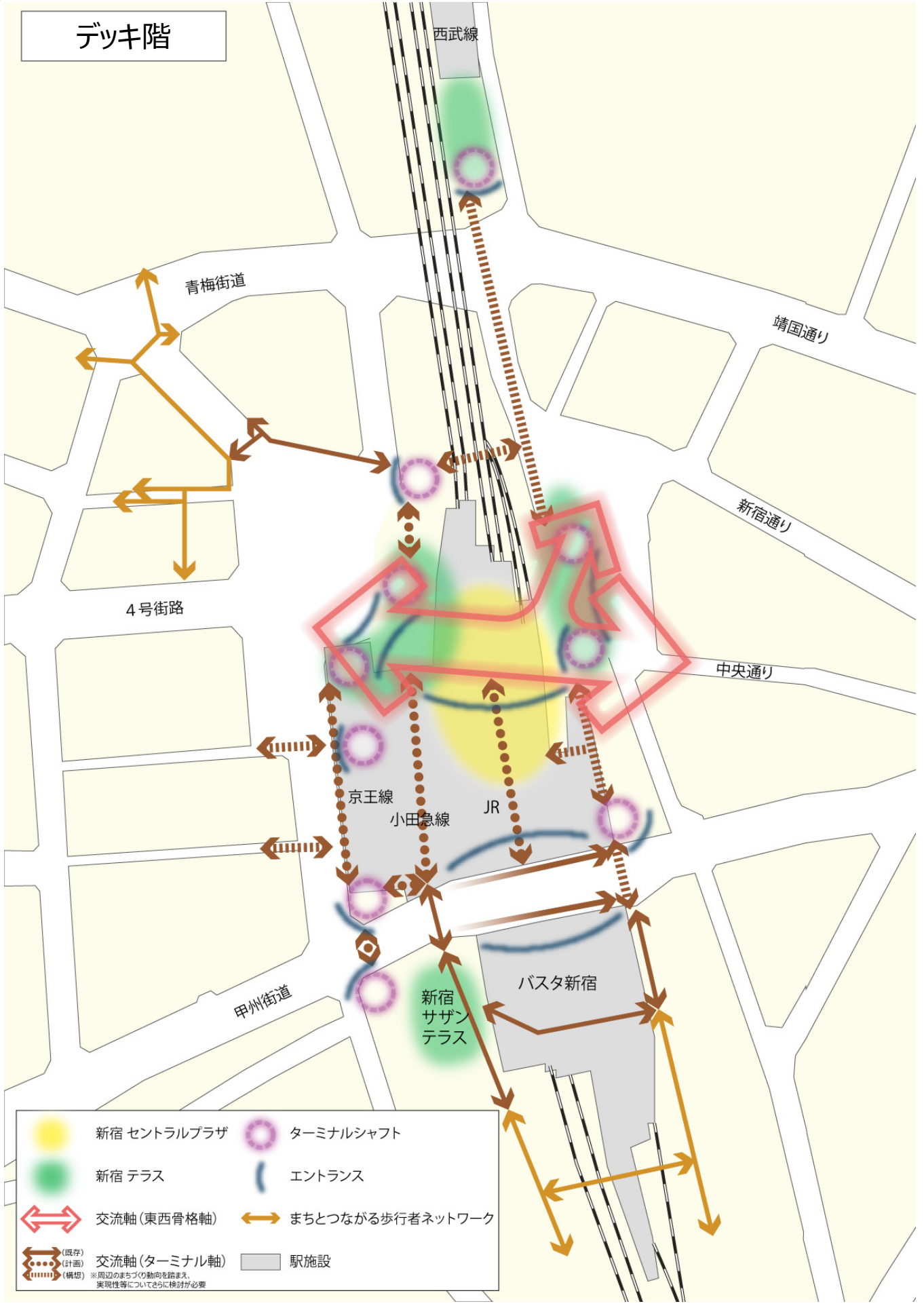
▲周辺地区で連携して災害時を想定した防災訓練のイメージ

6 新宿グランドターミナルの階層別整備イメージ



※各種機能の位置・大きさは概ねのイメージである

デッキ階



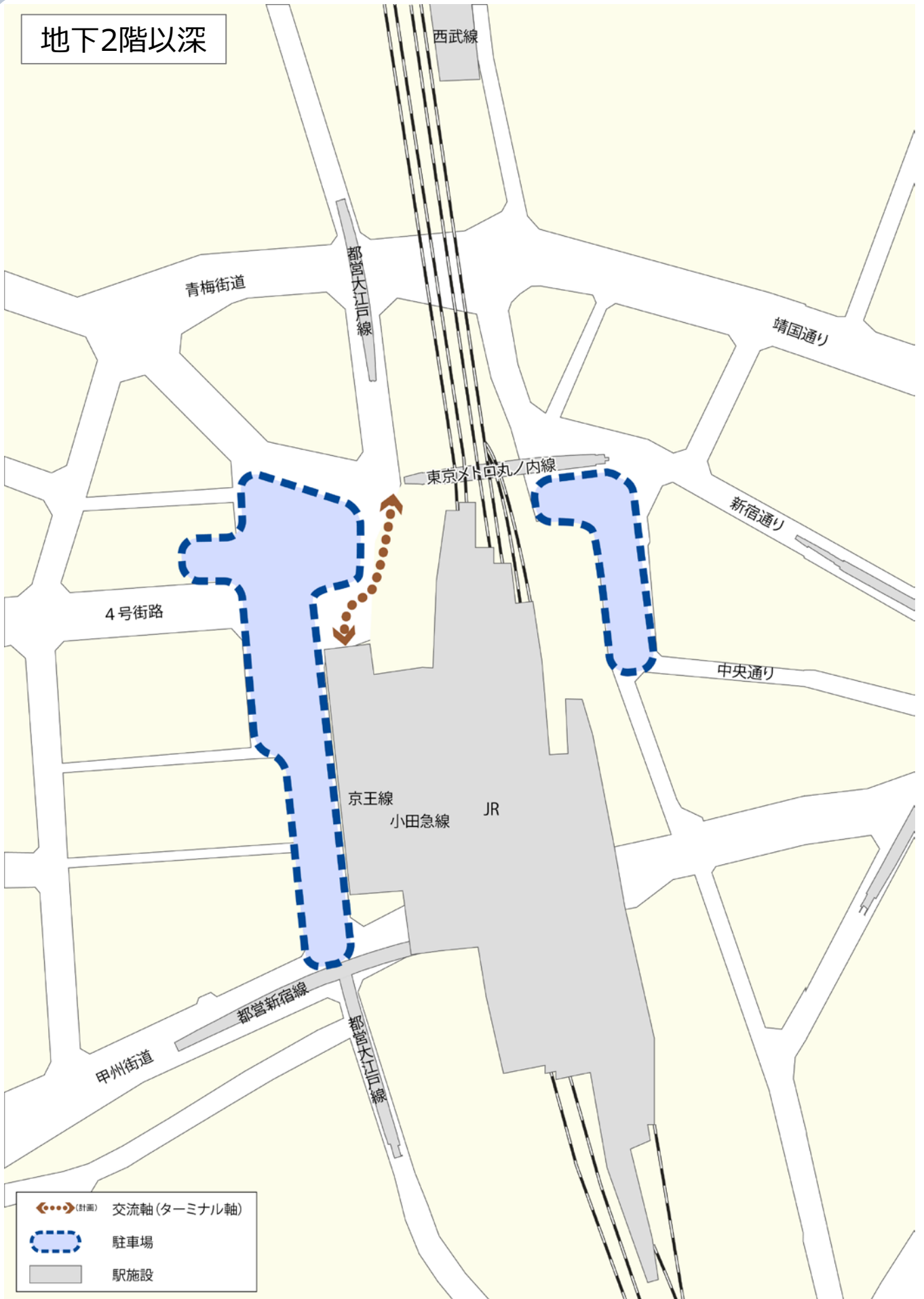
※各種機能の位置・大きさは概ねのイメージである

地下1階



※各種機能の位置・大きさは概ねのイメージである

地下2階以深



※各種機能の位置・大きさは概ねのイメージである

7 今後の進め方

スケジュール

2015年度	新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン（新宿区）
2016年度	2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について 答申（東京都都市計画審議会）
2017年度	新宿の新たなまちづくり～2040年代の新宿の拠点づくり～（東京都・新宿区）
	都市づくりのグランドデザイン（東京都）
2020年度	新宿の拠点再整備方針
	都市計画決定(地区計画、駅前広場・通路、土地区画整理事業、都市再生特別地区等)
	各種整備事業着手

事業の構成

種別	主な整備内容	主な事業者
鉄道駅施設整備	乗換経路の新設・拡充	国土交通省 東京都 新宿区 東日本旅客鉄道（株） 小田急電鉄（株） 京王電鉄（株） 東京地下鉄（株） 西武鉄道（株）
	駅施設の改良	
公共施設整備	東西デッキの整備	
	東西駅前広場・都市計画駐車場の再編	
	駅周辺街路の再編（歩行者空間の拡大等）	
	公共的空間の整備	
	機能更新（各種機能更新、交流機能の導入等）	
駅ビルの建替え		

今後のまちづくり

本方針で位置づけた内容について、今後着実に実現を目指していく一方で、2040年代を迎えるまでの間には、人工知能や自動運転技術、環境技術、情報通信技術など、様々な技術の進展や実用化が急速に進み、都市に求められる機能・空間が変化していくことも予想されます。

今後のまちづくりでは、こうした日々進化する技術を、常に積極的かつ柔軟に取り入れ、より利便性が高く時代をリードしていく、人中心の豊かなまちを継続して目指していきます。